

衆議院外務委員会ニュース

平成 27.3.27 第 189 回国会第 3 号

3 月 27 日（金）、第 3 回の委員会が開かれました。

1 在外公館の名称及び位置並びに在外公館に勤務する外務公務員の給与に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 11 号）

- ・岸田外務大臣及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成一自民、民主、維新、公明、共産、生活）

（質疑者及び主な質疑内容）

寺 田 学君（民主）

- ・我が国として、海外における拠点について十分な体制を構築することは必要だと考えるが、外務省は、中長期的に、どのような方針で今後の在外公館の整備に取り組むつもりなのか。
- ・在外公館の設置数及び職員数と国の行政機関の機構・定員管理との親和性について、外務省としてどのように考えているのか。
- ・在外公館の職員に関し、現地の日本企業の活動を積極的に支援する意識が乏しいとの意見があるが、外務省として、日本企業の支援により一層積極的に取り組むべきではないか。

青 柳 陽一郎君（維新）

- ・安倍内閣総理大臣が、参議院予算委員会（2015.3.20）における答弁の中で、自衛隊を「我が軍」と呼んだことに関連して、岸田外務大臣は自衛隊についてどのような認識を有しているのか。
- ・外務人事審議会による勧告をどのように人事行政に活かしているのか。また、同審議会における審議は、形骸化してしまっているのではないか。
- ・重要である日中関係を担う在中国日本大使館の次席公使が、短期間で異動した理由について、異動先に適性があるという外務省の説明だけでは国民は納得しないのでは

ないか。

穀 田 恵 二君（共産）

- ・第 7 回日中韓外相会議（2015.3.21）における共同報道発表を踏まえ、我が国政府は、歴史をどのように直視し、どのような諸課題に適切に対処するつもりなのか。
- ・歴代内閣の歴史認識を全体として引き継ぐという我が国の立場は、村山談話中の「国策を誤り」「植民地支配と侵略」を行ったという部分も含めて引き継ぐということなのか。
- ・我が国の歴史認識が、北東アジアの平和にとって、一つの大きな要となっている問題であることを岸田外務大臣は認識しているのか。

玉 城 デニー君（生活）

- ・シリアにおける邦人殺害テロ事件以降、政府は、我が国の在外公館の館員とその家族の安全確保のために、どのような対策を行っているのか。
- ・大規模な災害が発生した際には在外公館が邦人保護の拠点になると考えられるが、こうした非常時のための在外公館における備蓄等の状況はどうなっているのか。